

令和3年度第2回調整会議 議論まとめ(島しょ) R4.1.20 開催 1/4

(意見交換)新型コロナウイルス感染症流行下での医療の提供について

○本土で救急医療が逼迫している原因はなにか。(座長)

→現在、コロナ患者用として病床を 7,000 床近く確保しているが、これはコロナ前であれば通常医療に充てていた病床。そこが丸々なくなっている。また、この 7,000 床を維持するためにほかの病床の人員も足りなくなっているため、1 万床かそれ以上の病床が一般医療に使えなくなっているという状況。都内の急性期病床は四万数千床といわれており、全体の2割以上の病床が減っているという現状。今回のように、冬の一般医療の需要増加とコロナが重なれば、コロナも一般医療も逼迫することが想定されていた。(東京都医師会)

○スタッフも確保した病床に取られているのか。感染によって休みになってしまったということもあるのか。(座長)

→コロナ対応している病院は、そちらにスタッフが取られている。自身の感染や濃厚接触者になり、スタッフが出勤できないというのは、まだそれほど多くはないと思われる。これから感染者が増えていった場合は、提供できる医療がさらに逼迫していくことが予想される。病院の BCP を改めて見直してくださいという話に繋がる。(東京都医師会)

○東京ルール事案が1週間平均で1日200件ぐらいになっている。感染拡大前は1日20件ぐらいだったため10倍ぐらいになっている。この1月初旬から、多い日は260件ぐらいまでになっている。(医療政策部)

○一般医療が逼迫しているというか、救急医療はもう破綻しているというのが現状。一般病床もいっぱいだが、手術を受けられないということで、1カ月先まで手術の予約が入っているような病院もたくさんある。CCU ネットワークもだんだん閉鎖している病床も増えてきている。(東京都医師会)

○二次救急をとっているが、今のところは特に影響はない。発熱外来は、風邪の症状が1つでもあれば、外で一旦診てからという形で、中に持ち込まない工夫をしている。発熱患者は限定した看護師が対応するなどしているが、夜間に関してはこのような対応が難しいため、翌日でも問題ない方は翌日対応している。(大島町)

○利島村診療所では、看護師を1名増やし3名体制を確保している。住民の方々には、帰島の際には必ず PCR 検査を受けるよう案内している。(利島村)

○大きな影響はないが、内地の病院に紹介する際、予約の段階でなかなか決まらないというケースが増えてきた印象がある。一般外来では風邪症状のある方は看護師がトリアージして対応している。また医師と看護師が濃厚接触者にならないように、ゴーグルとマスクを装着して普段の外来も行っている。(神津島村)

○救急医療という観点では、広尾病院に相談することは多く、今のところ快くスムーズに転院や入院を受入れていただいております。有難く思っています。先週、島内でも陽性者が出て、職員も濃厚接触者に

あたるような方も出て、内地に近いような状況も出てきている。標準的な予防策はもちろんだが、昼食時間をずらすなど、院内での感染対策に気を付けている。(三宅村)

→職員の濃厚接触者が出たとのことだが、診療に影響はないということか。(座長)

→少なからず影響は出ている部分はある。看護師に関しては、抗原定性検査をした上で、最新の注意を払いながら出勤していただいたりして、今調整しているところ。(三宅村)

→エッセンシャルワーカーということで、濃厚接触者の解除前だが、検査をしながら業務を続けていただいているということか。(座長)

→本来なら PCR や定量検査が望ましいが、島ですぐわかるものとして抗原定性検査で代用して、勤務していただいている。休みの調整で対応できない部分は、やむを得ずこのように調整させていただいている。(三宅村)

○現時点では、診療所の状況が変わったということはない。当初から外来患者は完全予約制をとっている。大島と同じく、鼻水や咳などキーワードに該当する場合は、全例、発熱外来で対応している。また定期受診も含めて、内地の医療機関への受診が困難になるというケースが散見されており、紹介先の医療機関の選定には少し困る場合は増えてきた印象がある。(御蔵島村)

○病院等のスタッフの方々の尽力のお陰で、救急、一般診療、ワクチンの集団接種等、何とかやれている。(八丈町)

→本土から定期的に専門の医師が来島されると認識しているが、そういった先生が来られなくなったということは特にないか。(座長)

→緊急事態宣言等で飛行機の減便があり、来島に制限がかかっていた。交通事情で診療がうまくローテーションできなかったことがあった。(八丈町)

→明日からまん延防止等重点措置期間に入るとのことだが、今の時点では影響はないということか。(座長)

→今は減便していないので、天候不良以外には問題ないと考えている。(八丈町)

○青ヶ島村では発生者0名の状況。患者が内地に行くことに、すごく抵抗感を持っている人が多い。村民行事の中止期間について、診療所に意見を求められることが多い。(青ヶ島村)

○父島では、内地に行くことを控える方が一定の割合でいる。また内地の病院の、緊急時以外での受診について、調整のしづらさがある。実際に受診できなくてまずいということは今のところはない。何らかの感染症疑いの症状があれば、基本的には、診療所に入る前に、ウイルスのチェックをやっている。今後、オミクロン株の状況を考えると患者数も増えると想定されるが、リソースの割り方も十分かつ必要な範囲にとどめる、余りに対応を大きくしてしまうと業務や医療を逼迫させてしまうのではないかと考えている。内地で起こっているようなことが、恐らく、今後島でも発生していく可能性があると考えたと一般医療とのバランスをとりながらやっていく必要があると考えている。(小笠原村)

→診療所に入る前のウイルスチェックはどのようにやっているか(座長)

→基本的には、抗原定性検査か PCR 検査をやっている。症例によって、担当医が判断している。
(小笠原村)

→検査結果が出るまで時間がかかるが、結果が出てから診療所に入ってもらっているのか。(座長)

→抗原定性検査は10分ほどで結果出る。PCR は1時間かかるので、自宅で待機していただくケースが大半になる。(小笠原村)

○母島は、過去陽性者はいるが、診療所の業務が逼迫したということはない。診療時間帯や待合室等で密を避けるよう対応している。外出自粛で体力が落ちている島民がいる一方、風邪症状があるなかスポーツに参加するなど、島民ごとに意識の差がかなりある。1月に保健所が定期健診に来る予定だったが、それがなくなったため、診療所に代わりにやってほしいとの相談が島民から寄せられている。(小笠原村)

○現状で大きく変わった対応はしていないが、発熱外来用のコンテナハウスを設置した。備品が揃い次第、発熱外来はそこで診察となる。また明日からまん延防止重点措置期間となるが、それを見据えて、来島者には PCR 検査を義務付けている。費用は村負担。専門診療の代診の先生等も PCR 検査を行ってから来島いただく形となる。(新島村)

→どれくらいの規模になるのか。(座長)

→診療所だけだと10名ほど。(新島村)

→保健所の職員も例外なくか。(座長)

→その予定。(新島村)

→島しょ保健所の大島出張所も参加していますので、今のお話をあとで検討したいと思う。(座長)

○今はまだそれほど逼迫していないとのことで、少し安心した。東京ルール事案が激増していると話があったが、救命救急センターの応需率も落ちてきており、直近だと44%。外因性の疾患の応需が落ちてきているので、島しょの患者さんが診られないという可能性も出てくるかもしれない。広尾病院はどのような状況か。(東京都医師会)

→現状では、島からの患者さんはできるだけ受け入れようと考えている。しかし、コロナの発生状況によっては、去年の今頃のように、コロナ用の病床確保をするために、全面的に一般診療を止める可能性もある。その場合は、去年は、多摩総合医療センター等にお問い合わせざるを得なかった。今のところは、ホットラインも含めて出来るだけ受けたいと考えているが、状況によって変わる可能性もある。その際はいろいろな対策を考えさせていただきたい。(広尾病院)

○年間計画で展開している専門診療と健康診断について、今年度の状況はいかがか。(広尾病院)

→確認のうえ後日回答する。(医療政策部)

○医療従事者の3回目ワクチン接種はもう済んでいるか。

→終わった。(大島町)

→小笠原村、青ヶ島村、利島村、新島村も終わったとのこと。(座長)

→神津島は明日終わる。(神津島村)

→八丈も明日終わる。(八丈町)

→大体2月の頭ぐらいから住民の接種が始まる。(座長)

○今日は8,000人以上の新規陽性者が出たということだが、感染までの時間が2日と非常に短い。ただし、空気感染ではないので、今までどおり、三密を避けて、マスクをして、手指衛生に気を付けてもらえば、感染は予防できるということなので、しっかり感染対策をして、島の医療機能を維持していただきたい。(東京都医師会)

(意見交換1)地域医療支援病院の要件の追加について

- この要件の追加は、今後どのような流れ、スケジュールで行われるのか。(座長)
- スケジュールはまだ検討中だが、こうした事項を定めることについては、今まさに、地域医療構想調整会議で意見聴取しているところ。頂いたご意見を踏まえて、医療審議会に諮り、御承認いただく流れとなる。(医療政策部医療安全課)

(意見交換2)新型コロナウイルス感染症に関する各島での対応状況について

<テーマ>ワクチン接種や自宅療養者の状況・課題について

<意見交換>

- 2回目のワクチン接種が、8月27日現在で高齢者は92%、12歳以上は84%。9月16日で集団接種を終了し、その後は大島医療センターで個別対応。(大島町)
- 6月に集団接種2回目終了し、人口の93%が接種済み。自治医大出身のクリニックの先生に来ていただき、集団接種を1回目、2回目を2日ずつ土日に実施した。先生と看護師が移動して実施したため住民からも好評だった。(利島村)
- 12歳以上の81.8%が2回目終了。9月24日までの接種期間に予約済みの方が全て接種したとすると、87.3%の方が2回目終了予定。漏れている方は今後は診療所で個別接種。(新島村)
- 全体で77.5%の方が終了。残り1日接種日があるが、40歳代以下が68%とか58%という低い接種率なので全体の接種率を下げている。集団接種後に接種希望の方が出てきたときの対応を町村会や東京都に配分等お願いしている。(神津島村)
- 65歳以上の高齢者は、1回目が90.9%、2回目が89.3%。12~64歳の方は1回目が87.3%、2回目が84.0%。対象者全体では2179名おり、1回目終了が88.9%、2回目終了が86.4%となる。集団接種は終わり、個別接種の残り62名が終わればワクチン接種は完了する。(三宅村)
- 希望者全員の242名の接種が終了。対象者のうち概ね90%。今後は12歳到達時の方が3月末までに3名ほど出てくる見込み。(御蔵島村)
- 65歳以上は8月28日現在、1回目が88%、2回目が85%終了。全体では、1回目が75%、2回目が53%となっている。9月18日で集団接種は終了し、個別接種はクリニックで16歳以上の一般の方を対象に行う。また、八丈病院で、12~18歳の方に小児科で実施。3月まで、今後12歳に到達した人に対しても小児科で実施する。(八丈町)

- 8月6日で一通り接種終了。12歳以上の155名のうち、140名、約9割が実施済み。島外で受けたという話は聞かぬが、確認できていない方もいるので接種率はもう少し高くなるかと思う。駒込病院と広尾病院からご協力をいただき、集団接種を無事終了することができた。(青ヶ島村)

- 高齢者の集団接種と村内での小規模な集団接種、島外のスタッフを招聘しての大規模な集団接種を2回企画した。9月に2回目接種の方が一部残っているが、全て終わると父島で約86%、母島で約93%、合計で約85%の接種率。今予定しているワクチンの有効期限が切れる形になったものは他の地域へ移動していただき、今後定期的に接種が必要になっても対応にはあまり問題はないかと思う。へき地の事情をくんでワクチンを融通していただき、非常に助かった。(小笠原村)

- 非常に高い接種率だが、未接種の理由について教えていただきたい。(東京都医師会)
 - 集団接種は終了するが、個別接種の予約の受付を開始したところ、いきなり20名近く申し込みがあった。個別接種を希望している人が未接種だったのではないか。(大島町)
 - 若者の接種率が低い。1回目の副反応を経験したり、知ったりしたために2回目をやめた方が何人かいる。また、若い人の中には住所を残したまま島にいない方も結構いるため、島外で打っている可能性もある。一方、50代以上は80%以上なのでほとんどの方は打っている。また、打たないつもりだったが人が打っているのを見て、ということで後から申し込む方もいる。(神津島村)
 - 2回打つか1回しか打たないかで効果はかなり違うので、「1回打ったからいいだろう」ということではないということ、保健所として周知しないといけない。(座長)

- 前回のこの会議は陽性者が非常に増えていた時期で、「島で感染者が出た際に本当に広尾病院に入院できるか」という質問に対し、状況次第ですね、という話をしていたかと思う。島から入院するのが困難だった事例などはあるか。(東京都医師会)
 - 4月から7月までに、島しょ全体から86人受け入れ、うちコロナ患者が23人。現状、島の患者はすぐに受け入れている。ただ、産科はまだ受入ができないため、ご了承いただきたい。(広尾病院)

- 保健所の出張所が中心となって自宅療養の健康観察をすると思うが、自宅療養の課題や、苦労したことなどはあるか。(座長)
 - 8月下旬から自宅療養の方が数名いる。保健所が1日に1~2回、電話で健康観察を行っている。パルスオキシメーターの貸出もしているが、濃厚接触者の方にも体温計を持っていない方が案外いるため、体温計の貸出もしている。自宅療養者に対しては、希望者には食料も届けている。濃厚接触者について付け加えると、アプリ等を使い慣れていると思われる方には、MYHER-SYSを通じた健康観察も行った。八丈病院の木村院長とはマメに情報交換をさせていただき、何かあればすぐ相談できる体制になっているので特に大きな課題はない。(八丈出張所)

- 1月の調整会議で、搬送スキームの見直しや、地域に必要なリソースやマンパワーへの支援等について発言し、「検討させていただく」とのコメントがあったが、回答はいただけるか。(小笠原村)
- 「従来は、島で陽性になったら全員搬送ではなかったか」というご質問、御意見をいただいている。当時は陽性者は基本全員入院だったが、その後の状況で、医療が逼迫し軽症者が入るベッドがないということもあり、無症状者及び軽症者は、入院が第一ではないというふうに変化している。1月の会議後更に逼迫の度合いが進んでいるという中で、スキームについては町村さんへの回答を都の方で用意をしているところ。即答できておらず申し訳ないが、各関係部署でこの次の状況について回答を検討させていただいている。(座長)
- 広尾病院には、いつも島の医療を支えていただき、急患やコロナについても、内地の医療が逼迫している中でも受入に尽力していただき、大変感謝している。1月の会議の際、広尾病院から、「重症度の危険性を考えると、軽症であっても、島しょ地域の患者さんは搬送でいいんじゃないか」というコメントをいただいている。その後、国内、都内の状況が変わり、そういう流れのままというわけでもないのではないかと考えたりしている。先ほど広尾病院から「可能な限り受け入れる」とのコメントをいただいたが、島しょ地域の軽症の患者を搬送することについて、現場の先生方のご意見を伺いたい。(小笠原村)
- 病院全体としてというより、個人の意見になってしまうが、可能な限り島しょの患者さんは重症度に関わらず受けていきたい。伊豆諸島の行政搬送件数もかなり増えてきて、受け入れること自体は搬送経路での感染対策も含め、大分経験が積まれてきた。ただ、ベッドの状況が日々変わっており、特に重症ベッドが埋まってきて安易に受けづらい状況が発生することもあるという点で、流動的な部分はあるかと思う。(広尾病院)
- 議論しにくい話だと思うが、前提としては、軽症者でも重症化リスクの高い方はもちろん除いて考えた方がよい。ただ、実際、最近は軽症者は搬送されずに地域内で療養するケースが多数発生している。この辺はどことが判断基準になっているのか、なかなか整理できていないところがある。地域内で療養できる、元気な軽症者は地域内で診ていこうというのがコンセンサスなのか、出来るだけ搬送するが、広尾病院や保健所等のご意見を聞いて、その上で判断しなければならず、その時、最終的にどことが判断するのか、ということもいつも悩みながらやっている。(小笠原村)
- 島内での自宅療養に至った患者の経緯は、まず当院に相談がなかった例というものもあると聞いている。行政搬送の相談があり、診療所、保健所、当院との話し合いで搬送に至らなかった例もある。保健所、診療所で最終判断に至れば、受け入れるという返答を基本的にはしている。(広尾病院)
- 本土では、入院か自宅療養かは保健所が決めている。今はベッドが一杯なので軽症はできるだけ自宅療養というのが本土の現状だが、軽症者でも重症化する人がいて、場合によっては亡くなることもあり社会的な問題になっている。島しょは自宅療養者の具合が悪くなった時、医療機関にすぐアクセスできるかという非常に不安だと思うので、個人的には、島しょにおいては、重症化リスクが高い人は軽症であっても事情が許せば広尾病院で診てもらえたらと思う。(東京都医師会)
- 入院調整本部が一元的に調整していると思うが、島しょの場合はそれとは別ということでしょうか。(座長)
- 感染症対策部の方で決めることになっている。(医療政策部)

- 「できる限り島しょの患者を受け入れる」の前提には、「入院が必要な方」があるのか。(座長)
→実際はそうした基準は設けておらず、ベッド状況が許せば軽症者を受けた例はある。(広尾病院)
→そうすると、搬送機関の問題がある。受入先が合っても搬送手段が難しいのが島しょだが、「入院が必要な方」を搬送するとの話になっているので、その捉え方と調整の問題かと思う。(座長)
→若くて軽症の人の搬送依頼がすごくつらいという現状もあるので、いろいろなことに悩みながら島では診療しているということをご理解いただければ。(小笠原村)
- 本土の宿泊療養に行くことを考えてもいいのではないかと思うが、島民の宿泊療養はどのくらいあったか。(東京都医師会)
→聞く限りでは、島から直接ホテルにという例はなかったように思う。フェリーに乗れず、搬送手段の問題が出てくる。(医療政策部)
→宿泊療養を検討した例は記憶しているが、数日入院されて、退院後宿泊療養となったか自宅だったかは分からない。(広尾病院)
- 軽症者の搬送が大変なら、軽症のうちに島で抗体カクテルを積極的にやっていくという話はあるか。(東京都医師会)
→感染症対策部と救急災害医療課の尽力により、希望する診療所にはおいてもらえることになり、近いうちに置く予定。(小笠原村)
→配布先の調整を今しているところ。広尾病院の入院後、本土の宿泊療養に切り替えた例は承知している。また、島しょから東京に出てきていた際に発症し、宿泊療養となった例も数例承知している。(座長)
- 広尾病院が「軽症も受け入れる」とのことだったが、確実に受けていただけるのか。(八丈町)
→「確実に」と言われるとなかなか難しいが、「可能な限りは受け入れていく」という方針でいる。(広尾病院)
→八丈病院で中等症は入院できるのか。(座長)
→中等症の患者を入院させている。(八丈町)
- 今年の3月頃、広尾病院がコロナの拠点病院なので、一般のへり要請の場合受け入れを他の病院に振り分けるとなったと思うが、今後そういうことは起こり得るか。(神津島村)
→今は基本的には広尾病院で受けていただいている。(医療政策部)
→へりの搬送順位も広尾病院が一番に戻っているので、救急は可能な限りやっていく。(広尾病院)